

円形の作品制作

藤 森 大 雅 (大 節)
Hiromasa (Daisetsu) Fujimori

本作は二〇一九年「大東文化大学書道カレンダー」の揮毫依頼により制作したものである。

「大東文化大学書道カレンダー」は文学部書道学科、書道研究所の専任教員の書作品が掲載された壁掛けカレンダーで、デザインは書道学科非常勤講師の美柑和俊氏によるものである。菱形や楕円形等、一般的なカレンダーには見られない形状とモダンなデザインが特徴的で人気を博している。「第65回全国カレンダー展」では「経済産業大臣賞」(二〇一四)を受賞した。

毎年カレンダーに使用する書作品の制作では、どこに掛けても景観を壊さず、心地よく見られる作品であること、そして、カレンダーとしての仕上がりを含めて作品をイメージすることを心がけている。今回は円形の紙面に指定されていたため、行書の多字数で潇洒な趣に仕上げたいというイメージのもと、制作にとりかかった。

円形の形式は瓦当や紈扇などがある。これらの章法は特に約束事

は無く、如何に体裁よく文字を配置するかが重要となる。しかし、書作品としてはただの行書きでは平凡で面白味に欠けてしまう。試行錯誤の末辿り着いたのが扇面の章法を取り入れることであった。行間は上部が広く、下部に向かって狭くなるように調整し、それに合わせて文字の大きさも徐々に小さくして全体の調和を図った。また各行の文字数は揃えず、紙面の形に合わせて行頭・行末の位置を変えよう設定した。こうして円形の紙面の中で下から上に向かって放射状に広がりを持つような視覚的效果を期待したが、下半分の文字がやや大きかったために狙い通りとはならなかった。

枚数を重ねる毎に力が入ってしまい、潇洒な趣とはほど遠くなったものの、円形という紙面の特徴を生かした制作はできたのではないかと思う。引き続き課題として挑戦したい。



55.5cm

悲秋將歲晚、繁露已成霜。
徧渚蘆花白、霑籬菊自黃。
應鐘鳴遠寺、擁鴈度三湘。
氣逼襦衣薄、寒侵宵夢長。
滿庭添月色、拂水斂荷香。
獨念蓬門下、窮年在一方。
顏榮詩、大節。